

「地域の力」診断ツール ワークショップ実施報告 p.30

2015年度は、持続可能な地域づくりに取り組む福島県二本松市東和地区と福島県喜多方市山都地区の皆さんに、試験的に診断ツールを使ったワークショップを実施していただきました。東和地区、山都地区ともに、豊かな自然に囲まれた農業を基盤とする中山間地域で、人口の減少や農業の担い手の高齢化が進む中、地域資源を活かし都市住民を巻き込んだ住民主体の地域づくりに取り組んでいます。

- 福島県二本松市東和地区ワークショップ（2015年10月19日15:00～18:00、道の駅ふくしま東和 あぶくま館にて）

新規就農者の積極的な受け入れや、農産加工品の開発、グリーンツーリズムの推進等、地域全体で進める様々な取り組みの母体である「特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」の協力のもと、地域の方14名（NPO関係者、社協、農協、集落支援員等）にご参加いただき、ワークショップ形式で「地域の力」診断ツールを活用しました。診断ツールの質問表に記入回答していただいた後、グループごとに診断ツールの各分野についての議論を行い、その後、議論の内容を全体で共有し、今後の取り組みについて考えました。

「共生社会」の分野では、全体的に高い評価となりましたが、その一方で、地域活動の中核は団塊の世代であり、次世代への継承が課題との指摘もありました。「経済・金融」分野では、所得格差は比較的大きいものの、小規模な自給経済の取り組みが活発であるところに持続可能性が感じられるとの指摘がありました。また、地域内循環経済を進めるには、商業と農業の更なる連携が必要との意見もありました。

「自然との共生」分野については、有機農業への積極的な取り組みや、美しい景観の保全活動、リサイクル・リユースの取り組み等、東和地区の強みの部分との認識が共有されました。中山間地域なので、ある程度の不便は当然であり、そのような暮らしの中でどの程度の利便性が必要かということが、個人の幸福度と関わってくるのではないかとの意見がありました。



ワークショップを実施して p.31

福島県二本松市東和地区

菅野 正寿 あぶくま高原 遊雲の里ファーム主宰



震災から5年が経ち、あらためて地域の力、農業の役割を考えてみたい。地域の力診断ツールは、自分たちの地域の実態調査をするという意味で大事であると感じた。東和では都市との交流を進める中で、NPO が立ち上がった経緯がある。新規就農者受け入れや道の駅での農産物の直販など色々やってきたが、課題としては市の行政に反映されていないということである。定住支援部署の設置など、持続的なものにしていくことが必要ではないだろうか。

この5年間で、福島県の農業人口は30%減少した。未だに稲作を再開できない地域もある。行政だけではなく、集落や地域の力が試されている。米作りをやめた集落が続出し、里山の風景がなくなっていく。たった2～3年の間の大きな様変わりを実感している。販売農家も5万戸減っているが、一方で生産農家は減っていない。自給している高齢者の力を評価したいと思う。新たな共同の力をどう作っていくのかが、これからの大きな課題だと思う。

地域にNPOがあったことで、震災後も様々な取り組みが可能になった。いわゆる「往還者」の存在も大事だが、都市の人々とともに取り組む組織づくりも大事ではないか。地元の間人だけでは限界があり、地元の利害関係もある。福島の農業は、企業や都市市民との協力によって再生していくしかないのではないか。福祉、防災、食料協定を都市と結んでいくことできないかと考えているところである。



ワークショップに参加して p.34

ワークショップに参加した皆さんからは、「参加して良かった」等概ね好い評価をいただきましたが、一方で「もっと時間があれば、地域の課題を出し切ってより具体的な取り組みにつなげられた」等、より良いワークショップ運営につなげるべきコメントもいただきました。以下では、参加者の皆さんから寄せられた診断ツールやワークショップ等に対するご意見や感想を紹介します。

<診断ツールについて>

- ・ 地域の問題について、数値化することでより深刻に考えることができるので、ツールは参考になりました。ただ、主観が入るので日頃の感じ方(楽観的か悲観的か)によって数字は大きく変わってしまうかもしれません。(山都地区)
- ・ 診断ツールの設問は答えやすく、数字を見て気づきかけとなり良いと思います。年齢や性別で、どのような差が出るのかという点も気になるところです。(山都地区)
- ・ 普段考えていることを整理できたことが良かった。面白かった。/ テーマを持って話あいができることは良い。(東和地区)

<ワークショップについて>

- ・ あたりまえとして見過ごしている地域を見直す視点をワークショップはもたらしてくれました。(山都地区)
- ・ 課題に対する改善案が具体的に出てきたのでとても良かったと思います。これを機に新しい関わりが増えればと思います。(山都地区)
- ・ 外部の目が入ることの重要性を感じた。(東和地区)
- ・ ワークショップの場に来られない人をどのように巻き込んでいくのかを考える必要がある。(東和地区)
- ・ みんなで取り組む参画力の大切さを感じた。(東和地区)
- ・ 異なる地域同士でワークショップを行うのも意義があるのではないか。(東和地区)
- ・ 自分の集落でもワークショップをやってみたいと思った。/ 高齢者ワークショップはどうでしょう。(山都地区)

<地域について>

- ・ 現在かろうじて保っている棚田の景観を今後どう維持していくのか、5年後を考えると不安 / 若い人にどうつなげていくか(東和地区)
- ・ 発信力は十分と思われるが、さらに努力する必要がある、インターネットを使った発信に期待している。(東和地区)
- ・ 山都の力を感じたワークショップでした。蕎麦の栽培面積が90ha以上で、100人以上の生産者が関わるすそ野の広さを感じました。しかも20軒以上も蕎麦屋さんがあり、4億以上の経済効果は素晴らしいです。この強みを活かし、地域おこし協力隊等の新しい風を期待したいです。素晴らしい地域資源(山林、飯豊山、蕎麦等)をツールにおとしこんでほしいです。(山都地区)

<その他>

- ・ 「地域の力」とは、今がんばっている人ががんばること！それがとりあえず一番大切。(東和地区)

主観的幸福度に関するアンケートから p.35

「地域の力」診断ツールでは、地域を診断する6つの分野に加えて、地域の暮らしに対する主観的な満足度をうかがい、診断結果との関係を見ることで、「地域の力」を総合的に考えていきたいと思っています。アンケートでは、その地域に対する愛着や誇りについてうかがうとともに、これからも住み続けたいか、子どもにも住み続けてほしいかをお聞きし、最後に「あなたの考える幸せな地域とは」をお聞きしています。以下に、記述回答をいただいた、地域の中で愛着や誇りを感じる部分と幸せな地域像について紹介します。

<どんなところに愛着を感じていますか>

- ・ 豊かな自然、伝統的な景観、山里の風景、子どものころからの記憶に残る風景、生まれたところ、自分の故郷、季節ごとの楽しみがある
- ・ 人情の良さ、人とのつながりの深さ、仲間、地域コミュニティ、地域内交流、移住者を仲間として受け入れる心の広さ
- ・ 食の豊かさ、農林産物、山都蕎麦（地域おこし）

<どんなところに誇りをお持ちですか>

- ・ 雄大な自然、伝統的景観、歴史のある山々、先祖伝来の土地や文化が脈々と守られているところ
- ・ 各方面で頑張っている人がいる、地域づくりを考えている人がいる、豊かな人材、住人が良い、活動の協力者が多い
- ・ 都市部の方々が、自然や棚田の景観、農産物などをほめてくれること、県内外から来てくれる人が多い
- ・ 独自の地域づくり、自給自足のできるところ

<幸せな地域とは>

- ・ みんなで互いに支えあう地域、弱者に対して配慮できる仕組みのある地域、一人ひとりが地域で暮らす価値を感じられる地域、一緒に夢を語れる地域、地域の活力となるような夢や希望を持った人々があふれる地域、自分も周りの人も生活の心配のない地域
- ・ 出きる限り地域内で自給自足できる環境の整った地域、お金の頼らない生活のできる地域、都会の金銭感覚に振り回されない地域
- ・ 自然と共生した暮らしが続けられる地域、本当の豊かさとは何かがわかる地域
- ・ 多様な職や暮らしが共生するモノカルチャーでない地域、世代間交流の図られている地域、大人の知恵や技を子ども達に伝える仕組みのある地域
- ・ 故郷